

16 財務会計の概念フレームワーク

17 会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正

18 金融商品会計

19 連結会計

20 持分法会計

21 包括利益の表示

22 関連当事者の開示

23 外貨換算会計

24 ストックオプション

25 固定資産の減損

26 棚卸資産の期末評価

27 工事契約

28 退職給付会計

29 資産除去債務

30 税効果会計

31 読み方、理解の仕方のポイント

32 企業結合

33 事業分離等

34 キャッシュフロー計算書

35 四半期財務諸表

36 セグメント情報

37 1株当たり当期純利益

38 収益認識

39 年金資産の表示方法

40 未認識部分の会計処理

退職給付の考え方3つ☆☆★★②P226

退職給付債務の概念☆☆☆☆★★★

②P230

退職給付見込額の期間帰属方法☆☆☆☆★★★

②P232

年金資産の表示方法☆☆☆☆★★②P234

未認識部分の会計処理②P238

☆☆★★	退職給付の性質の考え方3つ	
	賞金後払説	②P226 退職給付を賞金の後払いと捉える。
	功績報償説	②P226 退職給付に従業員の勤続に対する功績報償と捉える。
	生活保障説	②P226 退職給付に従業員の老後の生活保障のためと捉える。
☆☆★★	退職給付制度の仕組み2種(給付原資の運用リスクを企業が従業員どちらが負うかの違い)	
	確定拠出型	②P226 企業の拠出額が確定→給付原資の運用リスクを従業員が負担。
	確定給付型	②P226 従業員の受給額が確定→給付原資の運用リスクを企業が負担。
☆☆☆☆	退職給付債務の考え方3つ	
	確定給付債務	②P230 将来の昇給等を考慮しない・受給権獲得者のみ対象の、退職給付債務
	累積給付債務	②P230 将来の昇給等を考慮しない・従業員全員を対象とした、退職給付債務
	予測給付債務	②P230 将来の昇給等を考慮した・従業員全員を対象とした、退職給付債務
☆☆☆☆	退職給付見込額の期間帰属の考え方3つ	
	期間定額基準	②P232 退職給付見込額について全勤務期間で除した額を各期の発生額とする。
	給付算定式基準	②P232 給付算定式ベースの見積み額を各期の発生額とする。
☆☆☆☆	数理計算上の差異の扱い方(基礎率の変動が財務諸表に与える影響を緩和する方法)2つ	
	回廊アプローチ	②P235 退職給付債務等を毎期末に計算→差異の累計額のうち許容範囲を超えた額だけF/Sに反映。
	重要性基準	②P235 基礎率の変動が重要な場合だけ計算→差異の全額をF/S反映。

3つのうち賞金後払説という、制度上の考え方をしっかり押さえる。
退職給付＝賞金の後払→従業員の労働サービスを会社が費消した結果発生している、という理解が大事。

「確定」＜「累積」＜「予測」の順で、計算される退職給付債務の額が大きくなることを確認。
現行制度上は予測給付債務の概念に基づいて計算されていることを確認。

給付算定式基準の考え方がイメージしにくいかもしれません。
しかし、IFRSがこちらを採用していることによる改訂論点ですので、押さえておきましょう。

年金資産をなぜBSに載せないか？
企業が通常保有している資産と違い使途が制限されているから(自由に使えない)というポイントを確認。

BS上、未認識部分をそのままにしておく、と、積立超過なのに負債計上、とか積立不足なのに資産計上、
といった、実質と矛盾したBSになることがあり得る、これは読者を誤解させるのだ、という理解を確認。